校長室の窓から　２５年５月

「山笑う季節」　　**校長　村上俊二**

神石の山は、今、広葉樹の薄黄緑の若葉が萌え、その間にツツジのピンク色やフジの紫色が点々と彩りを添える美しい季節を迎えました。正岡子規の句に、「故郷や　どちらを見ても　山笑ふ」とあります。木々が一斉に若葉を茂らせる春の山は、霞のなかで笑っているようで、駘蕩として心がなごみます。

私たちの祖先は、高い山岳ばかりでなく、森や林など、木の生えているところも山と呼びました。この、「笑う山」は暮らしの近くにある山で、今でいう「里山」にあたるものです。朝晩、山を眺めながら、季節の移ろいを実感し、また、森の恩恵を受けながら生きてきた人々の暮らしが偲ばれます。

神石小学校の前にある八尾城にもクヌギ・サクラ・ナラ・カシワなどが柔らかな葉を広げ、生き生きとしたエネルギーを感じさせます。そのような中で静かに落ち着いて学習に励む子どもたちは、本当に幸せだなと感じます。まもなく、やってくる運動会に向けて、エネルギーをいっぱいに発散させ、練習に励んでいます。どうか、当日はご家族、ご近所お誘い合わせてご来校いただきますようお待ちいたしております。